



Data	2023-147
監督・脚本: 韓帥 (ハン・シュアイ)	
出演: 范冰冰 (ファン・ビンビン)	
/ イ・ジュヨン / キム・ヨン	
ホ / キム・ミンギ	

👁️👁️ みどころ

章子怡 (チャン・ツイイー) もいいが、中国の美人女優ナンバー1 はやっぱり范冰冰 (ファン・ビンビン) ! 大方の男性の意見はそうだろう。そんな彼女には 2018 年、巨額の脱税事件が発覚したから、さあ大変! 大谷翔平の 10 年、7 億ドル (約 1015 億円) の契約もすごいが、彼女の追徴課税や滞納金、罰金の合計 8 億 8000 元 (約 146 億円) もすごい。

これで彼女の女優生命は完全にアウト! 誰もがそう思ったが、それから 5 年、本作で見事に復活! 彼女は如何なる役を? 女同士の逃亡劇は面白い。また、男同士は苦手だが、私は美しい女同士の同性愛映画は大好きだ。しかして、「緑の髪の女」を共演者とした本作の見どころは?

山東省煙台市出身の若手女性監督・韓帥 (ハン・シュアイ) は、「自由を得るためには、見えない何者かの許可を得る必要がある」と語り、さらに「この物語で彼女たちの揺るぎない決意にもう一度触れ、何者かに立ち向かう勇気を手にしたい」と語っているので、そんな視点から本作の展開と結末をしっかり見定めたい。ラストシーンでの吹っ切れた表情にも注目!

■□■ ファン・ビンビンと聞けば何を? 脱税事件から見事復活 ■□■

中国の美人女優、范冰冰 (ファン・ビンビン) と聞けば、ここ数年中国ドラマにハマっている私は、第 1 に、『武則天—The Empress』等をはじめとする長編時代劇 TV ドラマを、第 2 に、『355』(22 年) (『シネマ 50』104 頁) 等の海外進出映画を、そして、第 3 に脱税事件でのバッシング(?) を思い出す。

脱税の告発をきっかけに、2018 年 6 月に突然消息が途絶えたファン・ビンビンについては、2018 年 10 月 3 日、追徴課税や滞納金、罰金を合わせ 8 億 8000 万元 (約 146 億円)

余りの支払いを命じられたことが明らかにされた。ちなみに、去る 12 月 11 日に大々的に報じられた、大谷翔平が 10 年、7 億ドル（約 1015 億円）でロサンゼルス・ドジャースと契約したとのニュースもすごいが、ファン・ビンビンの脱税額と追徴課税、滞納金、罰金の額もすごい。その時の彼女は 37 歳だったが、40 歳を超えた 2023 年のベルリン国際画祭でディディ賞／パノラマ観客賞にノミネートされた本作で見事に復活！

■□■タイトルの意味は？“緑の髪の女”に注目！■□■

香港映画である本作の原題は『GREEN NIGHT』、そして邦題も『緑の夜』だが、その意味は？私にはそれがよくわからないが、本作でファン・ビンビンと全く“対等の立場”で共演する“緑の髪の女”を演じるのは、韓国映画『なまず』（18 年）（『シネマ 51』218 頁）で主演し、是枝監督の『ペイビー・ブローカー』（22 年）（『シネマ 51』201 頁）にも出演した韓国女優イ・ジュヨン。そして、監督は中国人の若手女性監督、韓帥（ハン・シュアイ）だ。

本冒頭は、韓国の仁川空港の保安検査員として働く女性ジン・シャ（ファン・ビンビン）が、韓国の仁川から中国の煙台行きの飛行機に乗ろうとする“緑の髪の女”（イ・ジュヨン）のボディチェックをするシーンから始まる。そこで何らかの異変を感じたジン・シャは上司にその旨を告げたが、上司は「彼女は、仁川から煙台に商品を売りに行く常連客だから大丈夫」といい加減な対応だから、アレレ。しかも、そのやり取りを聞いた緑の髪の女は「面倒だから搭乗をやめる」と言い出したから、更にアレレ。この冒頭のシーンで飛行機の目的地が煙台とされたのは、ハン・シュアイ監督の出身地が山東省の煙台市であるため・・・？

それはともかく、その日の勤務を終えて空港から帰ろうとしたジン・シャは、再びそこで緑の髪の女と出会ったが、これは偶然？それとも・・・？

■□■どちらの女が好き？危険はあっても、この女なら！？■□■

冒頭からぶつかり合う 2 人の女を対比すると、韓国女優イ・ジュヨン扮する、謎めいた緑の髪の女の方が口数が多く表情が豊かなこともあって、コケティッシュな魅力に溢れているのに対し、中国人女優ファン・ビンビン扮するジン・シャの方は陰気で無口であるため、生活に疲れたやつれ女感が強い。また、そのため、2 人の会話でもリードするのは緑の髪の女だし、行動もいかにも思いつきの緑の髪の女の提案通りになってしまう。その結果、なぜかジン・シャは夫のイ・スンフン（キム・ヨンホ）が待つ自宅へ緑の髪を泊めてしまうことに・・・。

他方、ジン・シャがにらんだ通り、緑の髪の女が持つ大きなバッグの中には、麻薬や覚醒剤を化粧品等に偽装した禁制品が大量に入っていたからヤバイ。しかも、この緑の髪の女はシャーシャーと「組織に属さず、独自のルートで売った方が利益が高い」と語っていたから、真面目な保安検査員のジン・シャは啞然。しかし、どうしようもない夫とこのまま先の見えない生活を続けて一体どうなるの？

そんな疑問の中で、ジン・シャはいつそ緑の髪の女と行動を共にしようかと考えていると、いきなりイ・スンフンから“迫られてきた”からアレレ。何とかその性的欲望から逃れようとしたところを助けてくれたのは緑の髪の女だが、血を流して倒れているイ・スンフンはこのまま死んでしまうの・・・？

■□■女 2 人の逃亡劇に注目！その先例は？■□■

リドリー・スコット監督の最新作は、去る 12 月 2 日に観た『ナポレオン』(23 年)。158 分の長尺となった同作は、一方で英雄ナポレオンの伝記モノだったが、他方では“マザコン男”(?) で人間味あふれるナポレオン像を、いかにもリドリー・スコット監督流に浮かび上がらせていた。そんなリドリー・スコット監督の昔のメチャ面白い映画が、女 2 人の逃亡劇を描いた『テルマ&ルイズ』(91 年) だった。同作は、ブラッド・ピットの出世作になったことでも知られているが、それ以上に「90 年代の女性版アメリカン・ニューシネマ」として有名だ。ウエイトレスとして働く中年の独身女性ルイズは、親友で専業主婦のテルマと週末のドライブ旅行に出発したが、途中のバーで泥酔したテルマが、店の客にレイプされそうになると、助けに入ったルイズはテルマが護身用に持っていた銃で男を射殺！これは、ルイズにもレイプされ傷ついた過去があったためだが、その後の中年女 2 人の逃亡劇は如何に？同作後半で見た 2 人の中年女の成長物語(?) は圧巻だった。もっとも、こんな映画がハッピーエンドで終わるはずはなく、結末はなんともみじめなものに・・・。

それと同じように、本作も中盤からはジン・シャが運転するスクーターでの女 2 人の逃亡劇になるので、それに注目！イ・スンフンの死体が発見されても、2 人でソウルへの逃亡を決め込み、バッグの中に入っている禁制品を極秘ルートで販売すれば女 2 人なんとか生きていけるはず。それが 2 人の(暗黙の)計画だったが、緑の髪の女の彼氏ドン(キム・ミンギイ)も想定どおり、かなりヤバそうな男だ。ジン・シャに対してはあれほど強がっていた緑の髪の女も、ドンの前では所詮弱い女？そんな心配が一瞬私の頭の中をよぎったが、いやいや・・・。

■□■男同士は嫌だが、女同士の同性愛なら・・・？■□■

私は男同士の同性愛の映画は大嫌い。そのため、明智光秀と荒木村重との中年男同士の男色をはじめ、男色だらけの映画、北野武監督の最新作『首』(23 年) はノーサンキューだった。しかし、美しい女同士の同性愛の映画は『中国の植物学者の娘たち』(05 年) (『シネマ 17』442 頁)、『アデル、ブルーは熱い色』(13 年) (『シネマ 32』96 頁)をはじめとして、大好きだ。18 世紀のフランスでは、若い女性が肖像画を描いてもらう目的は、より良き結婚相手を選ぶためのお見合い写真代わりだったそうだが、そんな“常識”を超えて、ある女流画家が密かに伯爵令嬢の肖像画を描いたのは一体何のため？そんな映画が『燃ゆる女の肖像』(19 年) (『シネマ 48』108 頁) だったが、同作も後半からは女同士の恋(同性愛)が美しく、かつ生々しく描かれていた。

しかして、本作では緑の髪の女のボディチェックをしているときに、ジン・シャの目に焼きついた緑の髪の女の胸元に彫られた花火のようなタトゥーに注目！また、ジン・シャの自宅でのシャワー時に見せるジン・シャの美しい上半身や、互いの足の指が触れ合うシーン等で、2人の女の“行き着く先”が暗示されるので、それにも注目！

今年の年末に公開される『エマニエル夫人』3部作（74・75・77年）の4Kレストア版ほどの“エロさ”はないものの、本作後半には私の予想通りの2人の“美しい絡み”（ベッドシーン）も用意されているので、それにも注目！

■□■何を恐れているの？このセリフにすべての意味が！■□■

本作のチラシの裏には「惹かれ合う孤独な2人の女 消えない過去 見果てぬ未来 彼女達の運命の先にあるものは——。」の文字が躍り、表には「何を恐れているの？」のセリフが1行だけ書かれている。このセリフは、一見自由奔放に生きているように見える緑の髪の女から夫の束縛下で息を潜めるように生きているジン・シャに対して何度も語られるセリフだが、まさに本作にピッタリ。本作のキーワードになっている。

他方、ハン・シュアイ監督は本作に込めた思いを、「自由を得るためには、見えない何者かの許可を得る必要がある」と語り、「この物語で彼女たちの揺るぎない決意にもう一度触れ、何者かに立ち向かう勇気を手にしたい」と語っているので、その言葉にも注目！抑圧された生活下にあるジン・シャが、緑の髪の女との出会いを本能的に危険だと感じたのは当然。しかし、「何を恐れているの？」に続いて、「誰かの許可を得る必要があるの？」と真正面から迫られたジン・シャが回答に窮したのも当然だ。自由を得るためには、性交を迫ってくる夫を拒否し、殴り倒してでも、さらには殺してでも自由を得なければ・・・。そんなジン・シャ役を演じたファン・ビンビンの心境や如何に？

■□■すべては運次第！その割り切りさえあれば！■□■

本作ラストは、緑の髪の女の彼氏の家で見つけたかわいい子犬を胸の中に抱いたジン・シャが、再び「すべては運次第」と呟きながら、ヘルメット姿でスクーターを走らせるシークエンスになる。その行き先がどこなのか？また、そこに新たな世界、新たな幸せが待っているのかどうかについては誰もわからないが、そこではジン・シャのすべてを吹っ切れたような表情が印象的だ。脱税事件から立ち直ったファン・ビンビンが今後、女優としてどのように再生していくのかを、本作を契機としてしっかり見守りたい。

2023（令和5）年12月15日記